

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	未定			(対象)	全校・学年
学校名	沼津工業高校	氏名	田中來夢	学年	2

1 目的・応募理由

私は幼いころから乗り物に興味を持っていました。高校入学時には、バイクに携わる仕事に就きたいと考え、工業高校に入学を希望し、現在は機械科で学んでいます。今回の高校生海外インターンシップでは、地元静岡にあるバイクづくりに携わっている大企業が、海外においてどのような生産方法や販売形態を取っているのか知ることができ、その国の文化に馴染んでいるか肌で感じることでできる絶好の機会だと思い、応募しました。

2 研修内容等

国内研修では、ヤマハ発動機本社に集合し、会社説明を受けました。海外資本の規模や海外進出している国や地域なども知ることが出来ました。本社工場内では品質管理や安全管理の方法、バイクの組み立ての工程、完成品の動作チェックを見学しました。見学後には、海外駐在経験者の方からお話を伺い機会をいただきました。

海外研修では、台湾工場での稼働率や売り上げなどの説明を受け、工場見学をしました。空調設備や配置されている工員数が日本工場とは異なるのではないかと思います。実際に、稼働率を下げていると伺いました。工場見学後、海外駐在員の方からお話を伺いました。ただ海外工場で仕事をしているだけではなく、台湾の文化や暮らし方、食生活や言語など、仕事以外についても学ばなければならないことを教えていただきました。



3 感想等

海外研修に参加することができ、興味を持っているバイク以外についても、多くのことを学ぶことができました。国内研修では資本金や海外進出規模を知り、想像もつかないその額や大きさに驚きました。本社工場の規模は大きく、見学の際にはセキュリティーチェックも厳重で、徹底した品質管理も実感できました。本社と周辺地域とのつながりのようなものを感じ取ることもできました。

海外研修では、日本工場同様に生産レーンや出荷のプロセスを見ることができ、日本工場との違いを少しですが発見できました。また、現地での販売店を実際に見ることができ、販売も工夫しているのだと感じました。

今回の研修を通して、一つのものをつくる大切さや大変さを実感しました。日本でもそうだと思いますが、台湾でも現地のライフスタイルや市場情報をもとにバイクを開発・販売しているそうです。このような人を介した企業努力の積み重ねが企業を発展させていくのだと思います。現地駐在員の方も現場で勤務しているだけでなく、その文化に馴染んだり言語を覚えたりするなどして、現場の方に溶け込む努力をされていることがわかりました。

このような機会を与えていただき、大変感謝しています。今回の研修を通して学んだことを今後の高校生活に活かしていきたいと思っています。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	11月1日		(対象)	全校・学年	
学校名	県立沼津商業高等学校	氏名	小野田 実桜	学年	2

1 目的・応募理由

私が高校生海外インターンシップに応募した理由は二つあります。

一つ目は、自身の能力を試すためです。高校生活で培ったチャレンジ精神やコミュニケーション能力を他校の学生や他国の方々との交流を通じて、活かしたいと思ったからです。

二つ目は、自身の可能性を広げるためです。海外に行くことで日本国内でしか考えなかったことを海外に向けて考えるようになり、将来の選択の幅が広がると思ったからです。今回の海外インターンシップのお話を聞くまで、海外に行きたいという夢を持ったことがありませんでした。ですが、台湾に行くことが決まり、台湾の文化や魅力、有名な食べ物、人気な観光名所などたくさん調べました。調べていくうちに、海外にもっと目を向けたいと思うようになりました。

2 研修内容等

台湾山葉機車工業の現状や事業説明、工場見学、社員食堂での食事、販売店訪問、県駐在員事務所訪問をしました。台湾山葉機車工業はヤマハ発動機の中でも最先端で活躍する工場であり、売上げの90%が海外とされています。

その理由としては、日本では約16人に1人が二輪車を持っているのに対し、台湾では1.6人に1人が所持しています。この統計は0歳から100歳までの全人口が含まれているもので、このことから2台持ちの方が多く、若いうちや高齢になっても乗車する方がすごく多いと分かりました。ヤマハ発動機は台湾市場で8年連続減少し続けているというお話を聞き



ました。

駐在員の方々は、「あと3年でV字回復をしよう！」と目標を立てており、みなさんそれぞれの向上心が高いと感じました。駐在員のみなさんに質問したことを丁寧に答えてくださりました。

お話を聞いた中で私が一番感銘を受けたのは、「物事の本質を理解しようと努力する」です。

例えば、やりがいとは言い換えると、自分が楽しいと思える瞬間のことです。他にも、駐在したい志望動機はなにかを問われたら、駐在して何を実現させたいのか答えるということです。日々の友達同士での会話で、疑問に思うことを言われたとしても、その言葉の本質を見抜くことで相手が伝えたい内容を理解することができました。

3 感想等

初めての海外を出会ったばかりの他校の学生と行くのが始めは少し不安でした。困ったことがあっても気軽に聞けないのでは、対面で話す機会がほとんどなかったからうまくコミュニケーションが取れないのではと考えていました。しかし、国内研修で二回目にあつたとき既に、昔から仲の良い友達のように互いに接することができ、話していてとても楽しく感じました。

海外研修のホテルではお互いの学校の事や住んでいる地域の事について共有したり、深夜にコンビニに行ったりしました。どれも新鮮ですごく印象に残っています。

今回、このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございます。台湾に行った三泊四日でチャレンジ精神やコミュニケーション能力が向上したと実感しています。

台湾に行ったことが、夏休み一番の思い出となりました。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	未定			(対象)	全校・学年
学校名	県立静岡東高等学校	氏名	佐藤 ひなた	学年	2

1 目的・応募理由

高校1年生の時に、学校のグローバル教育の一環として台湾の生徒との対面交流が行われました。私は煎茶部に所属していたので、台湾の生徒にお茶の淹れ方を教えたり、お互いの文化や学校生活について話したりしました。英語が得意ではなかったのですが、コミュニケーションがうまく取れた時は非常に嬉しく、また、彼らと仲良くなれてとても楽しい経験となりました。この交流を通じて、異国の人々と直接コミュニケーションを取ることができたことが大きな思い出となり、海外に対する興味が一層強まりました。

このことについて、担任の先生に話してみたところ、県が企画する国内インターンシップへの参加を勧めていただき、4月にそのインターンシップに参加することにしました。そこで、1年先輩の方と出会い、帰りの電車の中で「海外インターンシップは非常に楽しく、貴重な経験になった」と話してもらいました。私はそれまでこのようなプログラムがあることを知りませんでした。この話を聞いて非常に興味を持ちました。このことを学校の先生に話したところ、募集時期などの詳細を確認いただき、時期を待って応募することができました。

2 研修内容等

研修では、台湾のヤマハ発動機を訪問しました。社長と5～6名の社員の方々が、海外赴任の経験やヤマハ発動機のビジネスについてお話ししてくださいました。社長は「子どもにはたくさんの可能性がある一方で、勉強を頑張り、どんどん海外に出て自分でさまざまなことを感じ取ってきてほしい」とおっしゃっており、私も他の国々を訪れて多くの刺激を受け、成長したいと思いました。また、社員同士が笑顔で会話している姿が印象的で、会社の雰囲気の良さを感じました。

台湾の他社のバイクとヤマハのバイクの普及率についても話を伺い、普段聞くことのない情報だったため、ヤマハ発動機に対する興味がさらに深まりました。さらに、台湾には、海外企業が進出する際に、現地の雇用を促進するために、

社員の50%は現地の人を雇用しなければならない制度があることを知りました。この



制度は、その国の発展に繋がる技術習得を促進し、グローバル化の一環として重要な役割を果たしていると感じました。その後、販売店を訪れた際には、店長が丁寧に説明をしてくださり、自然に英語を話している姿に尊敬の念を抱きました。外国語を話せることが、コミュニケーションの幅を広げると実感し、私もそのようなスキルを身につけたいと思いました。

また、静岡県駐在員事務所を訪問した際には、台湾について簡単な説明を受けた後、業務内容についてお話いただきました。特に、静岡県への観光誘致と観光PRに力を入れているという印象を受けました。コンビニエンスストアとの共同プロジェクトとして、一部店舗を静岡県の観光地をアピールするラッピング広告で装飾したり、積極的にウェブで情報を発信するなどの取り組みをされていることを知りました。年間約450万人の台湾の方が日本を訪れているようで、日本だけでなく静岡県についても知ってもらい、実際に静岡県を訪れてくれたら嬉しいなと思いました。

3 感想等

バイクのシェア率が世界一位の台湾では、道路の風景が日本とはまったく異なり、ただ外国にいただけで、すべてが新鮮に感じられました。初めて台湾のレストランで食事をした時、日本では味わったことのない料理や果物をたくさん楽しむことができました。中には、味や食感がまったく未知のものもあり、非常に新鮮な体験でした。また、気候も日本とは異なり、スコールが頻繁に降るなど、日本ではなかなか経験できないことが多々ありました。お手洗いの使い方も異なっていて、国によって「普通」が違うことを肌で感じることができました。慣れるまで時間がかかりましたが、他国の文化を経験し、比較することで、日本の特徴について少し知ることができました。

異なる場所に身を置くことで、学べることが多くあると実感しました。台湾で過ごした時間は特別で、印象深いものでした。宿泊したホテルのエレベーターで、現地の方と少し会話をする機会がありました。最初は台湾華語で話しかけられましたが、日本人だと伝えると、その方は日本語で挨拶をしてくれ、「台湾に来てくれてありがとう」と言ってくださいました。少し英語を交えての会話でしたが、親切に対応してくださり、とても温かい気持ちになりました。翌朝、朝食を食べるためにロビーに向かう際にも声をかけてくれて、彼らの親切さに感動しました。

この事業のおかげで、このような貴重な経験ができたことに心から感謝しています。国内研修を含め、海外インターンシップを通じて学校生活だけでは得られない多くの学びを得ることができました。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		高校生海外インターンシップ		訪問国	台湾	
校内発表会		12月23日			(対象)	全校・学年
学校名	県立島田工業高等学校	氏名	曾根 光葵	学年	2	

1 目的・応募理由

私が海外インターンシップに参加した理由は、3つあります。1つ目に今までの自分を変えたいという思いからです。私は人と関わるといふのを必要最低限しかしておらず、コミュニケーション能力がとても低いのではないかと思いました。このままだと会社に入り、働くというときに自分が孤立してしまって仕事ができなくなると想像してしまい、知り合いのいない状況に身を置くことで変われるのではと考えました。2つ目に自分の考えを広げたいと思ったからです。自分の見ている世界はとても狭く、考え方も1つに固執しているように感じていました。多種多様な考えを持つ、海外の文化に触れ、新しい考えができるようになると考えました。3つ目に自分が興味のある会社に行けるからです。家族が原付バイクに乗っているのを見て、バイクに興味湧き、仕組みや作業を知りたいと思いました。以上3つの理由から有名なヤマハ発動機にインターンシップに行けると見て、応募しました。

2 研修内容等

国内研修（令和6年8月1日）

場所 ヤマハ発動機株式会社

内容

- ・ヤマハ発動機株式会社の概要説明
- ・ヤマハ発動機の工場見学
- ・ヤマハ発動機コミュニケーションプラザ見学
- ・台湾駐在経験者との交流会



海外研修（令和6年8月20日）

場所 台湾山葉機車工業股份有限公司 新竹廠 Yamaha YMS 興旺重車 桃園重機旗艦店

内容

- ・YMTの概要説明
- ・YMT工場見学
- ・販売店の見学
- ・ヤマハ発動機台湾駐在員のお話

3 感想等

今までの生活からは考えられない大きな経験をさせてもらえました。ヤマハグループといえば県内でも大きな企業で、全国・世界的に有名なブランドなのでインタ

ーンシップが決まった時は、うれしさや楽しみがありました。しかし、他の学校の人と上手く関わりあえるのかという不安や大手企業に就業体験できるという緊張感が初めのころは大きかったです。研修に行くにつれ、メンバーとうまくコミュニケーションがとれた



おかげで緊張が和らぎ行く前に感じていたものは杞憂で済みました。実際に働く現場を見させてもらって、働くことは楽しいことなのかもしれないと思えたり、それぞれの信念を持って働いていることがかっこいいと思いました。国内研修だけでは感じられない、海外で働く独特の空気感というのも今回のインターンシップで感じることができました。「海外は不安なことが多いけど、新しい人と一緒に仕事ができるのが楽しい」と台湾の駐在員の方に聞いて国内に限定的な目を向けるのではなく、海外まで見る広い視野が必要だと感じました。特に心に残っているのは「心の持ちようで楽しくなる」という言葉です。これは、台湾の駐在員の方の話のときの「ポジティブ思考になれば、どんなこともきっと楽しく感じられる」と言われ、普段親などから言われていた言葉に似ているが、実際に海外という不安な要素が多い中で働いている人から言われると、言葉の重さが断然違い、心にとっても響きました。



海外と日本との文化の違いというのも体験できたと思います。台湾のコンビニでは、2本買うと安くなるルーレットや、八角の入った煮卵が鍋で売られているので様々な香辛料の香りが強かったです。台湾は車よりスクーターやバイクの方が多く、電動2輪車用の停止線や右側通行のところがありました。台湾は日本に近いけど、全然違う文化が発展していました。空港内で先に昼を食べてし

まい、さらに機内食を食べて、お腹がとても膨れてしまったことと、言葉が通じなかったことです。最後に私が応募する理由となった、コミュニケーション能力は参加する前は、受け身になりがちだった私と今の駐在員の方のコツを実践して自ら話に行く私とでは、比べ物にならないくらい変わったと思います。台湾駐在員の方の話だけでなく、自分が研修の時にしていた行動から見つけることができ、変わることができました。このようなことからこの海外インターンシップに参加して本当に良かったと心から思えました。ここで経験したことや失敗したことを12月に校内で発表するので、しっかりと全校生徒の前で発表して働くことについて考えてもらうきっかけになればと思います。

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	12月20日		(対象)	全校・学年	
学校名	県立掛川工業高等学校	氏名	高良 彪惺	学年	2

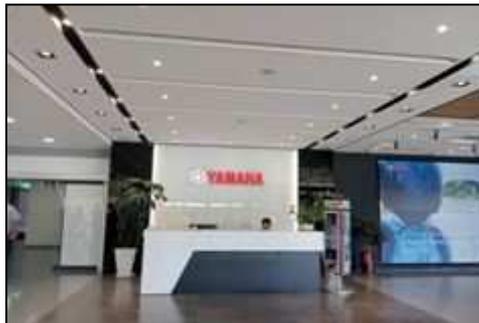
1 目的・応募理由

海外渡航と飛行機に乗ったことがなく YAMAHA とはどんな企業なのか、またどのような事業を海外で展開しているのかが気になったため。

2 研修内容等

海外研修では新竹区の YAMAHA 工場に行った。ホテルから台湾の工場まで1時間半ほどで到着した。研修先ではまず初めに台湾での二輪車保有数について説明していただき、総保有台数は約1,439万台となっており1台あたりの保有数は1.6人となっており、二輪車がかかなり多い国ということがわかった。YAMAHA の台湾での二輪車のシェア率は全体の約14%となっており、3位だった。残りの2つは台湾国内の企業が占めており、現在の目標はシェア率2位になることだと聞いた。その後台湾の工場で生産している製品の種類を聞いた。全世界にある YAMAHA のスクーターの殆どは台湾の工場生産していることがわかり、今まで私はスクーターも日本で作っていると思っていたので意外だと感じた。会社説明が終わったあと、台湾の YAMAHA の社長から挨拶があった。社長の言葉で印象に残っているのは「自分のやりたいことを本気でやる」という言葉だった。私はこの言葉を胸に刻んで自分の夢を追い求めていきたいと決意した。社長の挨拶が終わったあとエンジンの組立工場を見学した。エンジンの組立工場ではスクーターの後輪と一緒にライン形式で作業していた。台湾の工場にはスポットクーラーがなく日本と違って熱くないのだと感じた。また見学している途中、壁の張り紙を見てみると中国語だけでなくタイ語も書いてあり、台湾の人だけでなくタイの人も働いているのを知り、グローバルな企業であると知った。エンジンの組立工場を見学したあと、スクーターの組立工場へ向かった。組立工場では日本と同じ作業をしており、自動で部品を運んでくれるロボットがいた。他にも、排ガス規制による厳しい検査のやり方も同じだった。しかし、違うと感じたのはスクーターの運び方だった。日本の工場は検査が終わったあとすぐに箱に入れてしまうが、台湾の工場は社員の方が出荷場所まで、スクーターに乗って運ぶ方法で、斬新だった。次に去年に完成した、エンジンをアルミニウムのインゴットから鋳造している工場を見学して工場内にある社員食堂で台湾粥を食べた。そして、台湾の駐在員のお話を聞いた。まず初めに小川さんがお話をしてくださり、台湾に駐在してみたいの感想を聞かせてもらった。台湾の市場は日本と違い規模が大きく、小川さんのやりがいに繋がったり、台湾に来て仕事の幅が広がったりとプラスな内容が多かった。小川さんの仕事内容は開発業務や現地社員との交流と教えてもらった。次に製造本部の鈴木さんがお話をしてくださった。鈴木さんが台湾に転勤になる流れを教えてくださいました。鈴木さんの場合はもともと駐在の希望を出しており、上司から声をかけてもらい、駐在が決まったと教えてもらった。海外に駐在する基準も教えてもらい、何かしらの強みを持っていたり、コミュニケーション能力があったりと、知識、スキルだけでなくポジティブさや仕事や私生活を楽しめる、芯があるなどと、教えてもらった。私は将来、YAMAHA に就職したいと考えているため、鈴木さんが教えてくれたことをしっかりと自分の中に取り込み、基準を満たせるようにしたいと感じた。次に YMTT の金城さんにお話をしてくださった。金城さんはもともと通訳の仕事をしており、途中で YAMAHA に入社し品質保証部の副部長になった。金城さんは前職の知識を活かし、人財育成に力を入れられていた。人財育成には現地の言葉を話せるのが大前提でさらに、説明の上手さが必要だとわかった。金城さんのやりがいは課題を乗り越えたときや、自分のサポートで相手が笑顔になったとき、上司に褒められたとき、と教えてくださった。最後にお話をしてくださったのは第2製造部の伊藤さんだった。伊藤さんが台湾に駐在員として赴任した理由は部長の推薦で行くことになった。伊藤さんが仕事で心がけていることを3つ教え

ていただき、1つ目は「ポジティブ思考で物事を考える」ことだった。「できない理由を探すよりどうすればできるかを考えることに時間に当てるべき。」と教えてもらった。つぎに「コミュニケーション能力」だった。「あらゆる場面でも臆することなく自ら飛び込んでいく勇気が必要だったり、言葉が通じないと躊躇してはもったいない！」と教えていただき、私も実施前研修で自分から話しかけに行くことを少し躊躇していたが、これからはもっと自分から積極的に話せるようにしたいと感じた。最後は、「あ」の3段活用を常に心がけることだった。「あせらず」・「あわてず」・「あきらめず」この3つが伊藤さんの中で大事にしていることだった。駐在員や社長の話を聞いていて思ったのは、話をしているときに身振り手振りで会話しており、台湾の人と交流するときに言葉が伝わらないため、身振り手振りで会話しているのだと感じた。駐在員の話聞いたあと YAMAHA の販売店に向かい話を聞いた。販売店ではお客様に YAMAHA のオートバイを買ってもらうために、バイクのオーナーの方と交流イベントを行っており、新作のバイクの契約を取っていただいたり、整備をそこの販売店でしてもらうなどサービスの精神を感じることができた。



3 感想等

新竹区の YAMAHA の工場は同じ敷地内に本社があり、本社の会議室の隣に小さいセブンイレブンの自販機が置いてあった。温泉施設にある牛乳瓶の自販機みたいな構造でお菓子が売っていた。YAMAHA の社員さんのお話では会社の説明を聞いたが、驚く説明がたくさんあった。例えば YAMAHA 発動機と YAMAHA 楽器のロゴの違いを教えてください、YAMAHA 発動機は音叉が円の内側と接しており、YAMAHA の M が発動機の方は下にくっついていたり、よく見ればわかる違いがたくさんあることを教えてもらった。工場見学で日本と違うと思ったのはエンジンの組み立てラインに柵が見当たらず不思議に感じた。工場を見学している最中、女性の社員さんがはたらいしていることに気づき、案内してくれた方に聞くと2割ほど女性スタッフが活躍していると教えてくれた。

YAMAHA の工場見学をしているとき案内してくれた方が日本人だったが現地のスタッフと話しているときかなり身振り手振り話しており、言葉だけでは伝わりにくいということを目の前で実感することができた。他にも食堂で何を食べるか迷っていたとき、現地の社員さんが日本語で丁寧に説明してくださり、台湾の人にも優しいんだなと感じた。工場見学の全体を通して一番驚いたのはバイクの運び方だった。一人の社員さんが片手で運転をし、もう片方の手で完成したスクーターを運ぶやり方だった。慣れているのか、全然ブレることなくまっすぐ運べていたため驚いたし、日本と違って置き場所が組立工場から離れているところや運ぶのかと学びにもなった。日本と台湾の工場の違いや同じところがたくさん見つけることができ見学をしてとても楽しかった。将来は YAMAHA に勤めたいため社員さんが行っていた、身振り手振りで会話をしたり、恐れずに一歩踏み出してみることを日々意識してみたい。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	9月25日		(対象)	全校・学年	
学校名	県立袋井商業高等学校	氏名	奥宮 葉月	学年	2

1 目的・応募理由

私が今回の海外インターンシップに応募した理由は、これからの進路を考えたときに進路の幅を広げたいと思ったからです。来年には私たちは今後の人生に関わってくる進路を決めなければいけません。しかし、私は就職したいと思っているだけでこの企業に就職したいのか、就職して何をしたいのか具体的に決まっていません。今回のインターンシップのことについて学校の先生に説明を聞いたときに、これからの進路決定の参考になると思いました。また、ヤマハ発動機に関心があり、このインターンシップを通して、ヤマハ発動機の現在の取り組みや、これからの目標について知るだけでなく、工場見学などの研修を通して職場の雰囲気を感じたいと思いました。そして、一番の理由として高校生海外インターンシップを通して様々な力が身につくと思ったからです。例えば、海外研修に向けて準備するときには何かわからないことがあれば自分から聞いたり、飛行機やバスの時間があるので間に合うように考えて行動したり、将来絶対必要になる力です。私自身、周りに合わせて行動することが多くなっていたので、自分から積極的に動けるよう力をつけたいと思いました。

2 研修内容等

今回のインターンシップでは実践前研修、国内研修、海外研修に分けて行われました。

実践前研修では趣旨説明を受け、全体で海外インターンシップの内容説明を聞きました。グループ別では自己紹介をし、国内研修、海外研修、海外渡航について日程や持ち物などの詳しい説明を受けました。

国内研修では、ヤマハ発動機に行き、会社概要説明を聞き、スマートファクトリーの映像を視聴しました。その後、バイクの組み立てなどを行っている工場内を見学し、いくつかの質問をさせていただきました。工場見学が終わった後は台湾駐在経験者の方と交流会を行い、台湾について、台湾での仕事や趣味について教えていただきました。交流会が終わった後は、各自でコミュニケーションプラザに展示されているヤマハの製品を見学しました。



海外研修では二日目に台湾山葉機車工業に行き、会社概要説明を聞き、工場全体を見学させていただきました。台湾山葉機車工業の食堂で昼食を取った後は駐在員の方のこれまでの経歴や現在の仕事内容などについて聞きました。その後、販売店に行き、店内に置かれている商品や、実際にバイクを修理しているところを見学させていただきました。

3 感想等

私は高校生海外インターンシップでたくさん学ぶことができ、参加することができてとても良かったです。ヤマハ発動機や台湾山葉機車工業に実際に行き、ヤマハについての知識が身につきました。特にヤマハ発動機で見たスマートファクトリーは近未来の目標が掲げられ、AI と働くことや、働きやすい職場環境が考えられていて、とても素晴らしいことだと思いました。工場内で見た無人搬送機 AGV も上手に活用され、作業効率が上がっていて驚きました。台湾山葉機車工業では大型バイクの人気を高めていくことや台湾の二輪車割合のヤマハが占める割合を上げていく取り組みなども教えていただき、今回のインターンシップの目的の一つであるマーケットの競争力を肌で感じることができました。また、台湾についての知識も少し身につきました。例えば、二輪保有台数が約 1439 万台もあり、二輪車一台当たり台湾人口が 1.6 人で、日本の 12 人に比べてかなり差があることや、台湾は九州と同じくらいの面積でありながら人口が多く、土地があまりないため、台湾の都会には一軒家がほぼないこと、少子高齢化が日本よりも深刻であることです。今まで海外にあまり関心がなく、以外なことや驚くことが多かったので、台湾についても知れて良かったです。そして何より学べたことは、私が高校生海外インターンシップに参加した目的でもある自分から積極的に行動することです。海外に行くにあたってわからないことはしっかり聞くことができ、初めて一人で新幹線に乗り東京の電車を利用し、集合時間に間に合わせることができました。初めは不安なことが多かったですが、一緒に研修を受けた人たちとも協力して問題なく研修を終えることができました。インターンシップでは初めてのことが多すぎてあっという間に終わってしまいましたが、これから役立つ様々なことを学べたのでとても有意義な研修になりました。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	後日実施予定			(対象)	全校・学年
学校名	県立浜松工業高等学校	氏名	鈴木 颯良	学年	2

1 目的・応募理由

応募した理由の一つ目は私がもともとヤマハ発動機株式会社に就職したいと考えていたからです。ヤマハ発動機株式会社は静岡県西部を代表する大企業の一つであり、世界各国にも支社があるグローバル企業です。浜松工業高校の先輩方も多く就職しており、海外で活躍している先輩方も多く聞いています。私がヤマハ発動機株式会社に就職した時、私も海外で働く可能性があるかもしれません。そのため、海外駐在がどのようなものか、海外での生活はどのようなところが大変なのか、日本と海外では働き方や工場の仕組みがどのように違うのか、駐在している日本人の方々はどのような仕事をしているのかなど、たくさんのことを自分の目で確かめたかったからです。

二つ目は、海外に行ったことがなかったからです。海外駐在では、家と会社の往復だけしていればよいのではなく、買い物をはじめ、現地の人たちと同じような日常生活を送る必要があります。そこで、言葉の通じない海外での生活がどれほど大変かを、実際に体験してみたいと思いました。また、言葉だけでなく、食事の面でも海外生活をする上で心配でした。私は好き嫌いが多い方ではないと思うのですが、それでも日本人向けに味付けされた外国料理しか食べたことがなかったため、日本と台湾の料理や食文化の違いを体験してみたいと思いました。

三つ目は、積極的に行動できる人物に生まれ変わるきっかけとしたかったからです。もともと積極的に行動するのが苦手なので、「自分は他校の生徒と仲良くなるなんて無理だ」と決めつけていた部分もありましたが、同じような目的を持った同世代の人たちとの交流をしていく中で、新たな自分を発見できればよいと思い、応募することを決めました。



2 研修内容等

- ・台湾山葉機車工業
工場見学
販売店見学
- ・静岡県駐在員事務所訪問

3 感想等

ヤマハ発動機株式会社の日本の工場や台湾の工場、販売店、日本と台湾のつながりなど、たくさんのことを知ることができました。最初は台湾の工場を見られると思っていたのですが、磐田市にある工場も国内研修で見学できたことで、共通している点

や異なっている点に気付くことが出来ました。ノルマやルールが違うのは予想できていましたが、規格を統一化していると思っていたので工場そのものの様子が違うことには驚きました。色々と社会問題になっているためか、日本では車種ごとのノルマを設けず、需要に合わせて作っているのに対し、台湾では四十台ずつなどのノルマを決めていて、その国の需要に合わせて作り方を変えていることが分かりました。日本と台湾とで交通事情が違うため、需要数も変わるのだな、と思いました。また、デザインも日本にあるバイクそのままで作っていると思っていましたが、少し違うデザインをしたものが多く、日本人と台湾人のデザインセンスの違いや、台湾で流行しているバイクがわかって楽しかったです。

一方、駐在員の仕事は幅が広く、一から言葉を学ばなければならない海外でこの仕事をするのは、とても大変だと感じました。駐在員として派遣されている方々は当たり前のように平然と仕事をしていて、すごいと思いました。駐在員になるには、あらゆる面でとても高い能力が求められることがわかりました。インターンシップに行く前は、駐在員の方々も現地の方々と一緒に工場で作業工程のうちのどれか一つを担当しているのかなと思っていましたが、全体を管理する役割をしていると聞いて、とても驚きました。海外駐在では、言葉が通じなくても、品質確保や、最終的にはユーザーの安全のため、的確に仕事内容を伝える能力が必要だと感じました。

また、台湾での生活はあまりに日本と違うことが多く、慣れないことの連続でした。水道水が飲めなかったり、トイレに紙を流せなかったりして、日本での生活がどれだけ便利かを改めて感じることができました。食事に関しては、最初は日本との味と違って苦手を感じるものが多かったのですが、毎日食べているうちにおいしさに気づいて、食べられるものが増えていきました。また、日本の会社の飲食店が街中であって、日本の食事をいつでも食べられるのに親近感を感じました。将来台湾で仕事をした時には、台湾料理、中華料理、日本料理と、その日の気分で料理を変えて食べれば、毎日の食事が楽しくなりそうだと思います。

今回の海外インターンシップを通して、海外駐在のやりがいや、台湾での生活の楽しさを自分自身で体験し、知ることができました。同じグループの高校生との交流を通して、積極的に行動できない自分を克服できたように感じます。また、実際に仕事をしている方たちのお話を聞いて、改めてヤマハ発動機株式会社で働きたいという気持ちが強まりました。将来ヤマハ発動機に入社するためにも、海外で仕事をするようになった時に困らないためにも、今のうちからしっかり勉強と向き合っていこうと思いました。このインターンシップで得た様々な経験をこれからの学校生活に生かしていきたいと思っています。

